

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科高校の特色を活かし、各系列の選択科目での学習を通して、生徒の興味や関心に応じた幅広い知識や技能を習得させるとともに、全教職員が学校の教育方針に基づいて、キャリア教育・生徒指導・人権教育を密接に連携させてきめ細かい指導・支援を行い、一人ひとりの進路実現をめざす。

- 1 将来に夢と希望を持ちながら自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く努力する力を育成する。
- 2 多様な社会の流れや課題の本質を理解し、高い自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 3 地域との繋がり人との繋がりを大切に、互いに助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 4 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校として、外国にルーツを持つ生徒への適切な支援を行い、日本人生徒との共生を図る。

2 中期的目標

1 総合学科の特色を活かした確かな学力の定着

- (1) 生徒の実態等に基づき、基礎学力を定着させるとともに、興味関心・進路希望に応じた教育内容を創造する。
 - ア 系列等の選択科目について、普通科選択制高校として培った蓄積を活かし、生徒にとって魅力のある科目の内容の充実を図る。
 - イ 必修科目について、学び直しと少人数展開授業の実施等により、文章読解の力をはじめ基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくりを進め、生徒の学習意欲を向上させる。
 - ア 授業力向上プロジェクトを立ち上げ、公開授業や研究授業を積極的に外部に発信し、ICTを活用した授業改善についても取り組む。
 - イ 地域や保幼小中との連携を一層進め、施設実習や国際交流及び職業体験など多様な体験活動の機会を増やす。
 - *生徒向け学校教育自己診断における授業満足度について、29年度の58%から2020年度には70%にする。

2 将来に向けた力をつけるキャリア教育の推進

- (1) 「ドリカム」をコアカリキュラムと位置づけ、全ての授業との関連を持たせつつ、自分で考え自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
 - ア 3年間を見据えたグループ学習等を通じて主体的に学ぶ意欲を養い、多様な出会いや体験を通じて自分の将来像を描く中で、自尊感情や社会的有用感に富んだ人間性を育成する。
 - イ 3年生課題研究において、自分が選んだテーマを研究し、論文にまとめ、プレゼンテーションすることを通じて、視野を広げ伝える力を育みながら、自らの個性・生き方を磨き、自らの進路を切り開く力を育成する。
 - ウ 土曜講習や民間の教材等も積極的に導入し、生徒の基礎学力と学習意欲の向上をめざし、第1志望の大学・専門学校・事業所への進学率・就職率について、29年度の63%から2020年度には80%にする。

3 安全で安心な学びの場づくりの推進

- (1) 生徒一人ひとりをサポートする人権教育と生徒指導等の一層の充実を図る。
 - ア 生徒指導上の課題のある生徒、不登校の兆候の見られる生徒や個別の支援が必要な生徒については、中学校、保護者や外部の専門機関等と連携しながら早期に状況の改善に努める。
 - *平成30年度から3年間で遅刻件数、懲戒件数、不登校生徒数の10%減少をめざす。
 - イ 学校行事や交流活動などの生徒が生き生きと活動できる場を3年間見通した活動の中で提供する。また、部活動については引き続き重点項目とし、生徒の自尊感情や集団の中での有用感を高め、興味関心のあることに生涯を通じて継続的に取り組む力を育成する。
 - ウ 日本語指導の必要な生徒について、母語指導の充実や進路への取組みを進めるとともに、学校全体で多文化共生の取組みを進展させる。
- (2) 教職員が学校経営計画のもと志を一つにし、互いに協力し合う中でチームとして機能する職場づくりを推進する。
 - ア 担任だけでなく副担任も含め、情報共有を密にしなが、全ての教職員が適切かつ丁寧な指導できるよう、チームワークを活かし学年団として対応する。
 - イ 委員会・プロジェクトを立ち上げ、経験の少ない教員のOJTを図り、併せてミドルリーダーの育成を図る。
 - ウ 教職員一人ひとりの意識改革を図り、勤務時間管理や健康管理を徹底し、「働き方改革」に取り組む。

4 地域連携、保幼小中高連携の推進

- (1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成により地域とのつながりを充実させる。
 - ア これまで培ってきた幼保小中との連携、地域連携のネットワークを基盤に、地元に基づいた「開かれた学校」づくりを一層推進する。
 - イ 学校協議会及び学校教育自己診断を活用するなど、保護者や地域のニーズを反映した学校改善に取り組むとともに、「豊川教育コミュニティネット」の一員として、他校の教職員とのネットワークを強化し、総合学科高校として情報を積極的に発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>総合学科アンケートの結果より</p> <p>総合学科1期生であった32期生の結果と比較して、33期生は以下のように多くの項目で肯定的回答が大幅に増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合学科で学んでよかった」77.4→82.7 ・「選択科目の内容は期待通りであった」61.5→68.7 ・「総合学科で考える力や自主性を伸ばすことができた」56.7→65.0 ・「ドリカム」では進路や将来の社会参加につながる体験があった」46.9→52.1 ・「ドリカム」では研究や発表などの機会を豊富に持つことができた」45.0→56.2 <p>11項目の中で唯一肯定的回答が昨年度を下回ったものは「学校の施設・設備に満足できた」44.1→43.6であった。校内のプロジェクター等のICT機器が少ないことが影響していると考えられる。これを改善するため「学校経営推進費」「校長マネジメント経費」等を利用し、改善していく必要がある。</p>	<p>第一回(6/13開催)</p> <p>定員割れを一旦回避できたのはよかった。部活動の加入率の落ち込みは心配である。学校に行きたくなくなるような行事や活動にもっと取り組んでいく必要がある。一人で抱え込んでしまう先生方が多いが、チームで対応しないと厳しい。チーム学校・チーム福井として情報を共有していく必要がある。「授業力の向上」「学年団制の定着」には期待している。是非進めてほしい。</p> <p>第二回(11/21開催)</p> <p>授業見学を終えて、一年前と比べ変わってきている。視聴覚教材を用い、工夫している様子が見える。中学校への出前授業や地域の施設や夏祭り等への部活動の参加は、地元としては大変ありがたい。地道な活動をして、地域の中学校との連携をしっかりとやっていく事が大切である。</p> <p>第三回(3/7開催)</p> <p>定員割れは大変残念である。ドリカムフェスタのような取り組みを中学生に公開すべきである。高校側としてはやれるだけのことはやっているとと思うので、後は中学校が是非生徒を送っていただきたい。「総合学科」というシステムをわかりやすく説明すべきである。</p>

府立福井高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の定着	<p>(1)興味関心・進路希望に応じた教育内容の創造</p> <p>ア、選択科目の内容の充実</p> <p>イ、少人数展開授業・文章読解・学び直しの内容の向上</p> <p>(2)主体的対話的な授業による学習意欲の向上</p> <p>ア、授業改善の取組み</p> <p>イ、多様な体験活動の実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア、生徒の興味関心・進路に応じた多様な選択科目を実施する。</p> <p>イ、英数は習熟度別授業を実施するとともに、国をはじめ全教科で読解力の育成と学び直しの要素を取り入れた授業を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア、教員相互の授業見学や研究授業を実施するとともに、目標設定で「主体的・対話的」な授業の工夫を記載して実践を検証する。</p> <p>イ、昨年度中止となった韓国高校との国際交流を実現する。学習機会を提供することにより、人と出会い豊かな学びを創造する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、自己診断アンケートの「総合学科での学び」に対する肯定的回答を5%向上させる。</p> <p>イ、授業アンケートの「授業満足度」と「授業の工夫」の項目に対する肯定的回答が75%以上となることをめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア、経験の少ない教員を中心に、授業力向上プロジェクトを立ち上げ、相互授業見学月間を積極的に行い、授業力向上研修を年度中に1回実施し、ICT使用授業が30%以上になることをめざす。</p> <p>イ、施設実習等を20回以上実施し、韓国・豪州の高校との交流を再開する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、昨年度と比べ72.3→78.6とほぼ目標に達した。</p> <p>(○)</p> <p>イ、授業アンケートで授業関係項目の評価は73.2%だが、前年度から8%向上した。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア、相互授業見学期間を1か月から2週間に短縮し、6人の教員による授業を行い、他の教員も積極的に公開した。その後職員ディスカッションで「学力向上の取組みについて検討した。また、ICT授業が「できる」の回答が39.5%であった。(○)</p> <p>イ、福祉関係授業で年間20回以上行った。(○)</p> <p>韓国・豪州ともに国際交流のためスタディーツアーを実施した。(○)</p>
キャリア教育の推進	<p>(1)「ドリカム」を全ての学びの中心に</p> <p>ア、グループ学習の実施</p> <p>イ、課題研究の実施</p> <p>ウ、第一志望の進路決定率の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア、1・2年次において、プロジェクト学習や多様な社会人と出会う取組を実施する。</p> <p>イ、3年次に課題研究に取組むとともに、自らの進路決定する力を高める。</p> <p>ウ、民間のスタディアプリを導入し、進路指導部が中心に定着を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、自己診断(キャリア教育関係)の向上をめざす。(80%)</p> <p>イ、課題研究を実施するとともに、進路未定率10%以下をめざす。</p> <p>ウ、予備校講師の土曜日授業と同数の希望者を確保する。(20人程度)</p>	<p>(1)</p> <p>ア、「将来の進路や生き方について考える機会」が80.1%であった。(○)</p> <p>イ、課題研究発表大会の「ドリカムフェスタ」は2回目でもあり、興味深いテーマが多くあった。。進路決定率は85%にとどまった。(△)</p> <p>ウ、スタディアプリについては購入しているものの利用頻度については不足している。勉強会を開催するなど浸透させる必要がある。(△)</p>
安全で安心な学びの場づくりの推進	<p>(1)人権教育と生徒指導等の充実</p> <p>ア、生徒に寄り添った指導の促進</p> <p>イ、学校行事や部活動の充実</p> <p>ウ、多文化共生の取組み</p> <p>(2)志を一つにする教職員集団</p> <p>ア、全ての教職員のチームワーク向上</p> <p>イ、委員会・プロジェクトによるミドルリーダーの育成</p> <p>ウ「働き方改革」に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、人権保健部主催の職員研修や専門機関等の指導を受けるケース会議を行う。丁寧な情報共有ときめ細かい指導により、生徒が「学校生活を楽しい」と感じる雰囲気醸成を図る。</p> <p>イ、特別活動をはじめ、集団作りの観点から3年間を見通した取組を進める。部活動においては学校全体で支援体制を充実させ、加入率をあげ、かつ継続させる。</p> <p>ウ、日本語指導・母語指導・進路指導の充実と多文化共生の取組みを学校全体で進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア、学年団を機能させるため、学年室の整備を図り、学年主任を中心にチームとして生徒に対応する。</p> <p>イ、少人数での業務で経験年数の少ない教員へのOJTを進める。</p> <p>また、Yプロ(経験年数の少ない教員研修)を核に教員による学び合いの取組を実施する。</p> <p>ウ、全校一斉退庁日の趣旨を徹底し、長時間に及ぶ時間外勤務を行っている教職員の減少をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、研修・ケース会議を年間5回以上実施する。遅刻者数5%減を次年度も引き続き目標とする。</p> <p>イ、部活動の加入率55%を達成し、定着させる。(昨年度51.2%)体育祭・文化祭等について自己診断アンケート肯定的回答を70%以上とする。</p> <p>ウ、生徒の学校への定着や全員の進路決定をめざすとともに、日本ルーツの生徒との昼休みのランチ交流を10回程度行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア、ストレスチェックの「職場の支援(上司・同僚からの支援)」の項目を業種平均以上に改善する。</p> <p>イ、経験の少ない教員を中心に、委員会やプロジェクトを任せる。Yプロ経験者が、講師として後輩を育てる取り組みを2回程度実施する。</p> <p>ウ、全教職員がH29年度4月～1月までの残業時間を10%削減する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、残念ながら20%増となった、(△)、人権研修や事例検討会を計7回実施し、教員の意識向上と丁寧な情報共有に務めた。(◎)</p> <p>イ、第2回の部員調査で、45%と定着に至らなかった。部活動規定の見直しや、生徒のニーズにあった部活動の設置や新入生歓迎会等で部活動加入呼びかけを強化する必要がある。行事については肯定回答が75.6%であった。(△)</p> <p>ウ、今年度は1年生が特別枠以外にも一般入試で入学していて、対応に追われランチ交流まで手が回らなかった。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア、副担任は担任の補佐を積極的に行い、学年団全体で生徒に対応する気概は醸成されつつある。ただ、ストレス度は昨年度の102→120(高いほどストレス度が高い)と悪化している。(△)</p> <p>イ、Yプロについて、まとめの会合を持ち、3年目の教員から思いを伝えてもらった。また、グループディスカッションの場を2回持ち、学校運営について意見を述べる場を設けた。(○)</p> <p>ウ、残業時間については、順調に削減されているものの1月末現在で7%減にとどまる。意識は変わりつつあるので更なる改善がめざす。(△)</p>
地域連携、保幼小中高連携の推進	<p>(1)絆づくりと活力あるコミュニティの形成</p> <p>ア、地域に根ざした学校づくりの推進</p> <p>イ、地域、中学校に向けた情報発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア、生徒会、部活動などが地域のイベントに積極的に参加し、交流を深めることや、地元小中学校での出前授業を行う。</p> <p>また、茨木市人権研究会、豊川教育ネット主催の公開授業や研修に参加し、「福井高校を育てる会」と連携を強める。</p> <p>イ、学校の取組みをHP・説明会など地域・中学校に発信するとともに、「福井高カップ」をはじめ生徒主体の取組を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、地域のイベントに10回以上参加するとともに、出前授業を5校以上実施する。</p> <p>イ、HPを外部委託しリニューアルする。</p> <p>また、ブログ更新回数を今年度以上にあげる。オープンスクール参加者の10%増を達成する。また、学校の魅力発信としてリボン・ネクタイを導入し、定着を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、昨年同様に生徒会・部活動中心に小学校・地域の夏祭りや福祉施設での交流等を5回行った。出前授業についても「スポーツ」の授業生徒が小学校でスポーツの指導、男子バスケット部が小学校運動会に参加等5回行った。(◎)</p> <p>イ、HPは業者が決定するも、写真素材等の収集が遅れ次年度に先延ばしとなった。ブログ回数については昨年以上の回数となっている。(○)</p> <p>ネクタイリボンについては、業者との折衝に時間がかかり、次年度の導入となる(△)</p>